



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月5日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <https://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 大塚 憲郎
 (氏名) 長尾 拓昭
 TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	7,794	21.1	210		159	87.8	35	95.7
2020年3月期第3四半期	9,877	2.6	1,317	9.6	1,303	9.6	824	11.3

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 68百万円 (92.9%) 2020年3月期第3四半期 961百万円 (25.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	17.70	
2020年3月期第3四半期	414.91	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	20,670	7,746	33.9
2020年3月期	20,740	7,720	33.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 7,003百万円 2020年3月期 6,998百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		20.00	20.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)					

(注) 2021年3月期の配当予想は未定であります。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	16.0	350		50		0	100.0	0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	2,000,000 株	2020年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	12,020 株	2020年3月期	12,019 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	1,987,981 株	2020年3月期3Q	1,988,068 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。また、今後必要に応じて業績予想の修正を行う可能性があります。

なお、業績予想に関する事項については3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(追加情報)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の収束が見通せない中で、「Go Toキャンペーン」など政府による消費喚起策等の効果は一定程度見られたものの、年末にかけて感染が急拡大し経済活動に再度ブレーキが掛けられるなど、極めて厳しい状況下で推移しました。

当社グループでは、旅客減少や事業活動への制限から大幅な減収となりましたが、お客様と職員の安全を最優先に、各事業部門において監督官庁の指導や各種ガイドラインに沿った感染防止対策を徹底しました。

当第3四半期連結累計期間では、「Go Toキャンペーン」に伴い秋季観光シーズンを中心に、僅かではありますが回復傾向が見られ、当社グループの営業収益は7,794百万円（前年同期比△2,082百万円、21.1%減）となり、安全安心に直結するものを除くすべての費用において削減や執行時期の見直しを図りましたが、営業損失は210百万円（前年同期営業利益1,317百万円）となり、これに新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例に基づく雇用調整助成金243百万円（当第3四半期連結会計期間111百万円）などの営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は159百万円（前年同期比△1,144百万円、87.8%減）となりました。さらに、これに特別損益を加減し、法人税等及び非支配株主に帰属する四半期純利益を控除した親会社株主に帰属する四半期純利益は35百万円（前年同期比△789百万円、95.7%減）と非常に厳しい結果となりました。

次に、セグメント別の経営成績をご報告いたします。

(運輸業)

鉄軌道事業、バス運送事業、タクシー事業の各事業ともに、「Go Toキャンペーン」など消費喚起策の効果は一部あったものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により旅客数が激減し、大幅な減収となりました。

こうした状況下にあるものの、鉄軌道事業におきましては感染防止策をとったうえで、嵐山線においては沿線の鹿王院の夜間特別拝観の開催や、アニメとのコラボレーションによるラッピング車両の運行を実施したほか、叡山ケーブルでは瑠璃光院の夜間特別拝観を開催するなど、利用促進と沿線の情報発信を図りました。

バス運送事業におきましては、需要状況に応じた運行ダイヤに変更するなど、輸送の確保と費用削減の両立に努めました。また、京都バス(株)では京都市バスと連携し、秋の観光ピーク時期に京都駅前から東山通りを經由し三条京阪前に至る区間で臨時バスを運行したほか、京福バス(株)では、福井県との連携事業として恐竜のラッピングを施したJR福井駅と福井県立恐竜博物館間を結ぶ初の直通バスを運行しました。

なお、各事業におきましては、新型コロナウイルス感染予防対策業種別ガイドラインに準拠し、車内の消毒や抗菌・抗ウイルス加工、換気、飛沫防止のためのアクリル板やビニールシートの設置など、感染予防対策を徹底するとともに、関係官庁と連携し感染拡大防止啓発の広報活動を実施することで、引き続き公共交通事業者としての役割を果たしました。

以上の結果、運輸業の営業収益は3,831百万円（前年同期比△2,279百万円、37.3%減）となり、営業損失は1,010百万円（前年同期営業利益601百万円）となりました。

(不動産業)

不動産販売事業におきましては、京都、福井それぞれで「安全・安心の住まい」を提供する新築分譲住宅「京福の家」の販売に向け、専用ホームページやインターネット広告を活用した営業活動に取り組んだほか、分譲用土地3区画の販売を実施しました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」は、観光客の減少で大幅な減収となりましたが、秋季観光シーズンには、嵐山駅ビル屋上から景観を楽しめるイベントや、亀岡市と協働したNHK大河ドラマ「麒麟がくる」にちなんだ館内展示企画などを開催し好評を得ました。「BOAT RACE（ボートレース）三國」では、レース情報の配信サービス強化やキャンペーン実施などの販売強化策の取組みに努め、スマートフォンなどのネットによる売上が好調に推移したことから、施設使用料収入は大幅に増加しました。

以上の結果、不動産業の営業収益は3,284百万円（前年同期比681百万円、26.2%増）となり、営業利益は862百万円（前年同期比278百万円、47.7%増）となりました。

(レジャー・サービス業)

レジャー・サービス業におきましては、「Go Toキャンペーン」の効果等により、越前松島水族館、三国観光ホテル、ホテル京福福井駅前などにおいて、減収幅は縮小傾向となりましたが、回復の見込みは未だ厳しい状況にあります。

現況の改善に向けて、2020年12月26日から東映太秦映画村、京都鉄道博物館との共催で、映画が記録的興業成績となったアニメ「鬼滅の刃」とのコラボレーションイベントをスタートし、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」内の直営店舗において関連商品の販売に取り組んでいます。

また、越前松島水族館では、修学旅行などの団体のみで夜の水族館を楽しめる「夜間貸切プラン」や、恒例となった「ペンギンの初詣」の様子が各メディアで取り上げられるなど、誘客に向けた話題づくりにも努めています。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は977百万円（前年同期比△541百万円、35.7%減）となり、営業損失は61百万円（前年同期営業利益128百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金の増加があったものの、減価償却による固定資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ70百万円減少し、20,670百万円となりました。負債は、長期借入金が増加した一方で未払金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ95百万円減少し、12,924百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ25百万円増加し、7,746百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年11月5日の「2021年3月期 第2四半期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	994	1,668
受取手形及び売掛金	1,019	1,179
販売土地及び建物	102	219
商品及び製品	23	20
仕掛品	221	60
原材料及び貯蔵品	50	45
前払費用	38	40
その他	591	259
貸倒引当金	△7	△8
流動資産合計	3,034	3,485
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,073	9,916
機械装置及び運搬具(純額)	1,487	1,232
土地	3,858	3,848
リース資産(純額)	1,043	926
建設仮勘定	101	68
その他(純額)	357	292
有形固定資産合計	16,922	16,285
無形固定資産	159	125
投資その他の資産		
投資有価証券	247	261
繰延税金資産	119	230
その他	259	287
貸倒引当金	△2	△6
投資その他の資産合計	624	773
固定資産合計	17,705	17,184
繰延資産		
社債発行費	0	—
繰延資産合計	0	—
資産合計	20,740	20,670

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	44	41
短期借入金	3,544	3,738
1年内償還予定の社債	19	—
リース債務	173	153
未払金	1,408	603
未払法人税等	116	183
未払消費税等	91	256
賞与引当金	215	86
その他	450	606
流動負債合計	6,065	5,671
固定負債		
長期借入金	4,476	4,983
リース債務	911	822
長期未払金	276	205
繰延税金負債	652	656
役員退職慰労引当金	48	29
退職給付に係る負債	235	247
その他	352	307
固定負債合計	6,954	7,252
負債合計	13,019	12,924
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	295	295
利益剰余金	5,669	5,665
自己株式	△20	△20
株主資本合計	6,945	6,940
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	52	62
その他の包括利益累計額合計	52	62
非支配株主持分	722	742
純資産合計	7,720	7,746
負債純資産合計	20,740	20,670

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業収益	9,877	7,794
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	8,483	7,893
販売費及び一般管理費	76	111
営業費合計	8,560	8,005
営業利益又は営業損失(△)	1,317	△210
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	8	9
助成金収入	—	341
違約金収入	—	36
役員退職慰労引当金戻入額	—	14
雑収入	20	18
営業外収益合計	30	420
営業外費用		
支払利息	38	41
社債発行費償却	0	0
貸倒引当金繰入額	0	3
雑支出	3	4
営業外費用合計	43	50
経常利益	1,303	159
特別利益		
補助金収入	32	39
固定資産売却益	8	0
受取保険金	35	—
特別利益合計	75	40
特別損失		
固定資産除却損	12	30
新型コロナウイルス感染症による損失	—	29
減損損失	—	9
特別損失合計	12	69
税金等調整前四半期純利益	1,367	130
法人税、住民税及び事業税	428	182
法人税等調整額	20	△110
法人税等合計	448	71
四半期純利益	918	58
非支配株主に帰属する四半期純利益	93	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	824	35

(四半期連結包括利益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	918	58
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	43	9
その他の包括利益合計	43	9
四半期包括利益	961	68
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	868	45
非支配株主に係る四半期包括利益	93	23

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

当連結会計年度の第2四半期報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。しかしながら、同感染症の影響については不確定要素が多く、当社グループの経営成績等に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	6,095	2,463	1,318	9,877	—	9,877
(2) セグメント間の内部営業 収益又は振替高	15	139	201	355	△355	—
計	6,110	2,603	1,519	10,233	△355	9,877
セグメント利益	601	584	128	1,315	2	1,317

(注) 1 セグメント利益の調整額2百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	3,812	3,161	820	7,794	—	7,794
(2) セグメント間の内部営業 収益又は振替高	18	123	156	298	△298	—
計	3,831	3,284	977	8,093	△298	7,794
セグメント利益又は損失(△)	△1,010	862	△61	△209	△1	△210

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。